

**授業概要**

「歌は世につれ、世は歌につれ」という言葉が示すように、音楽は「鳴り響く音そのもの」としてだけ存在するのではなく、人々の生活や社会と密接な関係を構築している。そのなかでも、高度に産業化されたポピュラー音楽は、流行現象としてその時々世相や社会情勢を反映しながら、人々の生活に寄り添い続けてきた。

本講義では、西洋音楽の導入を経た明治時代の「流行歌」から現在の「J-POP」まで、およそ160年間に至る日本のポピュラー音楽史を振り返りながら、ポピュラー音楽とメディアテクノロジー、産業、社会との関係について、通史的に講義する。そして、日本のポピュラー音楽が今後も発展を続けていくために必要なこととは何か、受講生と一緒に考察を深めていく。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション
第2回	現在の日本のポピュラー音楽をめぐる諸問題
第3回	日本のポピュラー音楽史(1) 明治時代～大正時代——西洋音楽の導入、流行歌の誕生
第4回	日本のポピュラー音楽史(2) 昭和初期～第二次世界大戦末期——音楽産業の成立、戦争
第5回	日本のポピュラー音楽史(3) 終戦～戦後復興期——「りんごの唄」、GHQと将校クラブ
第6回	日本のポピュラー音楽史(4) 1950年代——高度経済成長期、望郷の歌、都市讃歌
第7回	日本のポピュラー音楽史(5) 1960年代前半——音楽産業の構造変化、渡辺プロ、テレビ
第8回	日本のポピュラー音楽史(6) 1960年代後半——フォーク、ロック、ビートルズ来日
第9回	日本のポピュラー音楽史(7) 1970年代——演歌、アイドル、ニューミュージック
第10回	日本のポピュラー音楽史(8) 1980年代前半——MTV、CD、シンセサイザー
第11回	日本のポピュラー音楽史(9) 1980年代後半——インディーズ、アイドル、レンタル店
第12回	日本のポピュラー音楽史(10) 1990年代前半——J-POP、タイアップ、ミリオンセラー
第13回	日本のポピュラー音楽史(11) 1990年代後半——インターネット、携帯電話、デジタル化
第14回	日本のポピュラー音楽史(12) 2000年代以降——「水のような音楽」、スマホ、サブスク
第15回	講義全体のまとめ
第16回	学期末レポート試験

**到達目標**

- ・ポピュラー音楽とメディアテクノロジー、産業、社会との関係を読み解くための基礎的な知識や視点を持ち、自身が親しんでいるポピュラー音楽のルーツ(系譜)を理解することができる。
- ・ポピュラー音楽について、好き/嫌いという表層的な視点ではなく、分析的な視点を用いて客観的かつ具体的に論じることができる。

**履修上の注意**

- ・講義では映像や音源を数多く紹介するため、毎回の積極的かつ主体的な参加を期待します。
- ・毎回の講義で紹介する楽曲やアーティストについて、親世代や祖父母世代の人々と積極的に対話することを期待します。

**予習・復習**

- ・予習：次回の講義で扱うテーマについてインターネットや参考文献等を利用した自主学習を行う。
- ・復習：レジュメや参考文献に目を通し、重要事項を年表形式でまとめること。興味関心のある事例について考察する際、すぐに参照することができる自分だけのデータベース構築を目指してほしい。

**評価方法**

- ・学期末レポート試験(70%)
- ・コメントカードおよび講義への参加態度(30%)

**テキスト**

- ・テキストは特に指定しない。
- ・毎回の講義でレジュメとコメントカードを配布する。
- ・毎回の講義で参考文献や参考資料を紹介する。